地域包括ケアネットワーク No.58

住み慣れた地域で最期まで過ごすために

医療法人朋友会　渡辺内科　渡辺　朋子

東区西大寺で一般内科で開業しております渡辺です。当東区の特色としては、①高齢化率が25.2％と岡山市４区の中では最も高いこと、②１km以内に救急に対応できる民間の中小病院が３つもあること、③慢性期病院や回復期リハビリ施設に加え、有料老人ホーム、特養やサ高住など介護施設が比較的多いことでしょうか。

通院患者さんが高齢化してだんだんと認知症になったりロコモティブシンドロームなどにより通院困難となった場合は当然訪問診療へと移行していくのですが、当院を含め在宅支援診療所はデータ上は17施設あるものの、岡山市内のように診療所同士の連携は現在のところまだありません。また在宅でターミナルステージの患者さんを診る診療所もまだまだ少ないようで、他診療所から当院への訪問診療の依頼も時にあります。

一方、通院または在宅患者さんの精査や入院治療が必要になった場合にお願いできる病院が近くにあるというのはとても心強いことです。３つの民間病院はそれぞれに特徴があり、病診連携としては一つの形になりつつあるようです。

また、患者さんに最期まで自宅または施設で過ごしていただくためには、在宅医以外に訪問看護師・介護士・理学療法士・薬剤師・歯科医師・ケアマネージャーなどの多職種の連携が必須となってきます。当地区では平成27年より医師会主導で在宅医療・介護勉強会を年４回行っており、在宅医療の実際、摂食嚥下や栄養療法、呼吸管理、腹膜透析など様々なテーマで各方面の専門家を講師に招き、知識・技能を深めるとともに多職種の顔の見える連携を築いています（毎回盛会ではありますが、他職種に比べ医師の参加が少ないのが残念なところです）。

ところが一般市民の方々の在宅医療・介護に関する知識は思っている以上に乏しく、啓蒙が急務と思われます。当地区でも市民を含めた勉強会やワールドカフェを年数回行っていましたが、この数年は休止状態です。以前印象深かったのは、在宅医療の実際や流れを各職種による寸劇でご紹介したところ大変好評で、参加された民生委員や町内会長さん方でさえ在宅でこんなにできることがあるとは知らなかったと、録画をして一般市民の方々にお見せしたいとまで言われました。

今後、2025年に向けて高齢者は増加の一途をたどると思われ行政の勧めるACPの普及ももちろんですが、それ以前に我々医療・介護関係者らと一般市民の両者の更なる意識改革・教育が重要と思われます。

「ときどき入院・ほぼ在宅　たまには施設もあるよ」を合言葉に、地域完結型の、言い換えれば 住み慣れたこの東区で最期まで過ごすためのネットワークが充実することを願っています。